

大

城

志

序
卷
故
事
記
錄



新脩大藏經圖像
PDG

目

次

白寶

抄(百五十一卷)

澄圓集

原本
〔兩部〕

一。京都醍醐寺藏本 二。滋賀叡山文庫毘沙門堂藏本 三。京都大通寺藏本

金剛界雜集九 叢山本 三九八

金剛界雜集十 叢山本 四一七

金剛界雜集十一 叢山本 四三六

金剛界雜集十二 叢山本 四五四

金剛界雜集十三 叢山本 四七六

金剛界雜集十四 叢山本 四九四

金剛界雜集十五 叢山本 五一三

金剛界雜集十六 叢山本 五三六

金剛界雜集十七 叢山本 五五二

〔佛部〕

阿閦法雜集 醍醐本 五六七

寶生法雜集 醍醐本 五七一

釋迦法雜集上 醍醐本 五七八

釋迦法雜集下 醍醐本 五八一

藥師法雜集上 醍醐本 五八二

藥師法雜集下 醍醐本 五八八

佛眼法雜集上 醍醐本 五九三

佛眼法雜集下 醍醐本 六〇〇

光明真言法雜集上 醍醐本 六〇五

胎藏界雜集一	叢山本	一
胎藏界雜集二	叢山本	三一
胎藏界雜集三	叢山本	六一
胎藏界雜集四	叢山本	六六
胎藏界雜集五	叢山本	一〇七
胎藏界雜集六	叢山本	一二九
胎藏界雜集七	叢山本	一三三
胎藏界雜集八	叢山本	一六九
胎藏界雜集九	叢山本	一九四
胎藏界雜集十	叢山本	二五
金剛界雜集一	叢山本	二三三
金剛界雜集二	叢山本	二五
金剛界雜集三	叢山本	二八一
金剛界雜集四	叢山本	三〇一
金剛界雜集五	叢山本	三三
金剛界雜集六	叢山本	三六二
金剛界雜集八	叢山本	三九〇

光明真言法雜集下..... 醒醐本..... 六二

〔佛頂部〕

大佛頂法雜集上..... 醒醐本..... 六三

大佛頂法雜集下..... 醒醐本..... 六三

一字金輪法雜集上..... 醒醐本..... 六三

一字金輪法雜集下..... 醒醐本..... 六三

熾盛光法雜集..... 醒醐本..... 六三

大勝金剛法雜集上..... 醒醐本..... 六三

大勝金剛法雜集下..... 醒醐本..... 六三

尊勝法雜集上..... 醒醐本..... 六四

尊勝法雜集中..... 醒醐本..... 六四

尊勝法雜集下..... 醒醐本..... 六四

尊勝陀羅尼法崇注等..... 醒醐本..... 六四

〔經 部〕

孔雀經法雜集上..... 醒醐本..... 六五

孔雀經法雜集下..... 醒醐本..... 六五

仁王經法雜集上..... 醒醐本..... 六六

仁王經法雜集下..... 醒醐本..... 六六

請雨經法雜集上..... 醒醐本..... 六七

請雨經法雜集中..... 醒醐本..... 六七

請雨經法雜集下..... 醒醐本..... 六七

法華法雜集上..... 醒醐本..... 六七

法華法雜集下..... 醒醐本..... 六七

理趣經法雜集上..... 醒醐本..... 六八

理趣經法雜集下..... 醒醐本..... 六八

六字法雜集上..... 醒醐本..... 敦山本..... 七五〇

六字法雜集下..... 醒醐本..... 敦山本..... 七五五

寶樓閣經法雜集..... 醒醐本..... 敦山本..... 七五九

寶篋印陀羅尼法雜集..... 醒醐本..... 敦山本..... 七六三

心經法雜集..... 醒醐本..... 敦山本..... 七七一

無垢淨光陀羅尼法雜集..... 醒醐本..... 敦山本..... 七七五

呪賊經法雜集..... 醒醐本..... 敦山本..... 七七八

童子經書寫作法雜集..... 醒醐本..... 敦山本..... 七八二

〔觀音部〕

聖觀音法雜集上..... 敦山本..... 七八三

聖觀音法雜集中..... 敦山本..... 七八四

聖觀音法雜集下..... 敦山本..... 七八五

千手觀音法雜集上..... 敦山本..... 七八九

千手觀音法雜集中..... 敦山本..... 七八九

千手觀音法雜集下..... 敦山本..... 七八九

馬頭觀音法雜集..... 敦山本..... 七八九

十一面觀音法雜集..... 敦山本..... 七八九

准胝觀音法雜集上..... 敦山本..... 七八九

准胝觀音法雜集中..... 敦山本..... 七八九

如意輪觀音法雜集下..... 敦山本..... 七八九

如意輪觀音法雜集上..... 敦山本..... 七八九

不空羈索觀音法雜集..... 敦山本..... 七八九

白衣觀音法雜集..... 敦山本..... 七八九

附葉衣觀音法雜集..... 敦山本..... 七八九

勢至法雜集.....八四

阿磨隸觀音法雜集.....觀山本.....八五

青頸觀音法雜集.....醍醐本.....觀山本.....八六

附多羅法雜集.....醍醐本.....八七

香王菩薩法雜集.....觀山本.....八八

〔文殊部〕
文殊法雜集一字.....醍醐本.....觀山本.....八一

五字文殊雜集.....醍醐本.....觀山本.....八二

八字文殊雜集上.....醍醐本.....觀山本.....八三

八字文殊雜集下.....醍醐本.....觀山本.....八四

〔菩薩部〕
五祕密法雜集上.....醍醐本.....八五

五祕密法雜集下.....醍醐本.....九一

五大虛空藏法雜集上.....醍醐本.....觀山本.....九二

五大虛空藏法雜集下.....醍醐本.....觀山本.....九三

普賢延命法雜集上.....醍醐本.....觀山本.....九四

普賢延命法雜集下.....醍醐本.....觀山本.....九五

延命法雜集.....醍醐本.....觀山本.....九六

地藏法雜集.....醍醐本.....觀山本.....九七

彌勒法雜集.....醍醐本.....觀山本.....九八

隨求法雜集.....醍醐本.....觀山本.....九九

滅惡趣法雜集.....醍醐本.....九一

圓滿金剛法雜集.....醍醐本.....九三

持世菩薩法雜集.....醍醐本.....九三

馬鳴菩薩法雜集.....醍醐本.....九五

附龍樹菩薩法雜集.....九六

藥王菩薩法雜集.....醍醐本.....九七

轉法輪法雜集上.....醍醐本.....九八

轉法輪法雜集下.....醍醐本.....九九

〔明王部〕

不動法雜集三.....大通寺本.....九一

不動法雜集五.....大通寺本.....九二

降三世法雜集上.....醍醐本.....觀山本.....九三

降三世法雜集下.....醍醐本.....觀山本.....九四

車荼利法雜集.....醍醐本.....觀山本.....九五

大威德法雜集上.....醍醐本.....觀山本.....九六

大威德法雜集下.....醍醐本.....觀山本.....九七

金剛夜叉雜集上.....醍醐本.....觀山本.....九八

金剛夜叉雜集下.....醍醐本.....觀山本.....九九

大威德法雜集.....醍醐本.....觀山本.....一〇一

金剛夜叉雜集.....醍醐本.....觀山本.....一〇二

大王法雜集一.....醍醐本.....觀山本.....一〇三

大王法雜集二.....醍醐本.....觀山本.....一〇四

大王法雜集三.....醍醐本.....觀山本.....一〇五

大王法雜集四.....醍醐本.....觀山本.....一〇六

大王法雜集五.....醍醐本.....觀山本.....一〇七

烏瑟沙摩法雜集.....醍醐本.....觀山本.....一〇八

金剛童子法雜集.....醍醐本.....觀山本.....一〇九

〔天部〕

毘沙門天法雜集.....醍醐本.....觀山本.....一〇六

炎摩天法雜集上.....醍醐本.....觀山本.....一〇七

炎摩天法雜集下.....醍醐本.....觀山本.....一〇八

水天法雜集	醍醐本	叡山本	一〇六
地天法雜集	醍醐本	叡山本	一〇九
帝釋天雜集	醍醐本	叡山本	一〇六
附最勝太子			一一〇
大自在天法雜集	醍醐本	叡山本	一一〇
十二天法雜集	醍醐本	叡山本	一一〇
聖天法雜集	醍醐本	叡山本	一一六
水歡喜天供法雜集	醍醐本	叡山本	一二三
吉祥天雜集	醍醐本	叡山本	一二六
寶藏天女雜集	醍醐本	叡山本	一二三
附伎藝天女			一二三
辨才天雜集	醍醐本	叡山本	一二三
大黑天神法雜集	醍醐本	叡山本	一二四
訶利帝法雜集	醍醐本	叡山本	一二八
摩利支天法雜集	醍醐本	叡山本	一二九
金翅鳥雜集	醍醐本	叡山本	一二〇

大唐袈裟圖(一卷)

京都東寺觀智院藏本

袈裟等圖(一卷)

京都東寺觀智院藏本

醍醐寺三寶院并遍智院灌頂道具繪樣寸尺等(一卷)

原本 一. 東京大藏出版株式會社藏本 二. 滋賀木本學樹氏藏本

畢里孕迦羅雜集	醍醐本	一一五
薺彌利童子雜集	醍醐本	一一五
深沙神雜集	醍醐本	一一五
妙見雜集	醍醐本	一一五
星供雜集上	醍醐本	一一六
星供雜集上三	醍醐本	一一六
星供雜集下	醍醐本	一一七
施餓鬼法雜集	醍醐本	一一七
後七日御修法雜集上	醍醐本	一一八
後七日御修法雜集下	醍醐本	一一八
Q3法雜集中	醍醐本	一一九
Q3法雜集下	醍醐本	一一九
Q3勘文	醍醐本	一一九
略作法	大通寺本	一二四

灌頂道具本記(一卷) 永仁六年性惠寫 良 奮 集 二三九

京都東寺觀智院藏本

醍醐二寶院灌頂堂圖(一紙) (別紙一) 二三六—二三九

京都東寺觀智院藏本

數 珠 圖(一紙) (別紙二) 二三六—二三九

滋賀石山寺藏本

三 寶物具鈔(十一卷) 宗淵輯貢昭寫 二三九

東京淺草寺傳法院藏本

先 德 圖 像(抄) 玄鑒筆 二三六

東京帝室博物館藏本

三 國 祖 師 影(一卷) 二三七

京都仁和寺藏本

傳法正宗定祖圖(一卷) 仁平四年寫 二三〇九

京都東寺觀智院藏本

六 祖 圖(一紙) 二三五

京都高山寺藏本

高 僧 影(一卷) 二三三

京都高山寺藏本

胎藏界雜集

一

本文

大日經七卷

攝大毘盧遮那佛神變加持經入蓮華胎

藏海會悲生曼荼羅廣大念誦儀三卷

攝大毘盧遮那成佛神變加持經入蓮華胎

胎藏海會悲生曼荼羅廣大念誦儀三卷

攝大毘盧遮那成佛神變加持經入蓮華胎

菩提幢標幟普通真言藏成就瑜伽三

卷法全

所依止之土是也。茲以四重海會十界依正莫不依止此胎藏祕藏記云花者理也理遍法界藏諸法於其中故曰花藏依此文胎藏妙理卽花藏也世出世一切法皆以花藏爲本源令緣起迷此意則淪三界六道之苦海悟此妙理忽到六在一實之本宮花嚴所說由妄念故流生死由實智故證菩提深可思之

曼茶羅

智證大師云。胎藏本從衆生煩惱欲處而
以外部外也。金剛

瑜伽記云。凡胎藏者。此法界理體。所以諸
尊無有次第。亦無定位。毘將來置一處也。

言。或有真言印。印成力。上無名下有印。印得地藏在觀音部。其義如是。又有印無真

言或有真言。自放上無名下。有曰相如是等類皆互相顯。應得意耳文

三部密証云院 問金剛界立五部定尊
位胎藏界立三部意何答金剛界除障成
一體也至三部也。所以五部之說立二部

身自受法樂行相也所以轉九識成五智故立五部胎藏界化度利生他受法樂行

相也。所以立三部。開大定智。悲三門。諸尊皆攝入三部。衆生悉引接三門。卽佛部大定。蓮花部大悲。金剛部大智。故立三部也。問。爾此胎藏諸尊分三部方何答。中院佛

部。觀音院蓮花部。薩埵院金剛部。此三院爲基。四方諸院皆隨各方攝屬。如此攝屬立部也。問。爾其攝屬方何。答。遍智院釋迦院文殊院持明院虛空藏院爲佛部。地藏院爲蓮花部。除蓋障院爲金剛部。四方天衆爲三部護法也文。

大云。胎藏自三部出。金界自五智生。胎藏以虛心合掌爲本三昧耶。金剛界以金剛合掌爲本三昧耶云々

云。先淺略義。金剛深胎淺一義也。深祕義。胎深金淺。智門理法義也。能證第三義。不二總體上有理智用。此云蓮花部胎藏金剛部金不二云。佛部云。第四義不二一體何前受不苦。若不說胎藏事。金界說之。金界說殘事。胎藏互相說。爲誠幘法者。一處聚集不說也。以此心經疏可見。胎藏界。金界事知。金剛界胎界事可知也。一切諸佛八葉四佛收。一切菩薩八葉四行收之上。理界總意云。觀想理界曼荼羅法。是胎藏界說。從法性阿字理體現不思議無數佛身周遍法界利益群生。初蓮花喻法身如來萬德莊嚴。謂法性金剛花臺之邊。重萬行諸波羅蜜花葉實相摩尼臺葉之間交五百總持之鬘葉。住行向地。佛蓮花高昇生死淤泥之水上。○胎藏者是阿字遍照悲腹胎三世諸佛悉出生是胎藏。十方菩薩併生長是胎藏。若人發大心託是佛胎中熟脫時節來。速生法王子。曼荼羅是大日如來。內證外用現身總名。內院外院無

量諸身巧列妙示輒令知其淨土無數佛國能教妙現安令悟其因果不二現八葉中標示八種知識斷惑金線絲帶於壇邊現示萬善貞持根力四限瓶流四諦現水洗除虛空法界惑塵五方攝耀五智光明照曜無盡世界罪闇真如地壇供品備理具萬善之妙味一見滅除無量劫罪無盡利益悉無不蒙疏云見位入位離一切惡文諸尊緣起者大日自證無相阿字示現中臺八葉諸尊金剛密印現第一重深妙尊嚴諸門眷屬大悲萬善現第二重摩訶薩埵大眷屬衆普門方便現第三重一切衆生所喜見隨類身○若分三部中胎遍智是佛部卽表法身觀音二重四菩薩是蓮花部卽表解脫金剛手二明王與釋迦世天是金剛部卽表般若理智具足覺道圓滿名稱佛部大悲三昧濕榮萬善名蓮花部大慧力用摧破三障名金剛部如是三種理備衆生心佛性常住名稱佛部是理清淨雖經歷於六趣四生罪濁之中不染不垢猶如蓮花名蓮花部是堅固沒在生死業泥之中經無數劫不朽不壞能破煩惱猶如金剛名金剛部判佛位者中胎八葉是自性身第一重是自受用第二重卽他受用身第三重釋迦是變化身九界眷屬等流身已上總意

七尊加觀音院三十金剛手院四十不動院五尊若院四大護院七釋迦院三十八文殊院二十九除蓋障院九尊十地藏院九尊

十一虛空院二十一十二蘇悉地院八尊十尊三護世天院亦外金剛部院云一百佛

菩薩明王等座蓮花者佛性蓮花證得故支佛成佛思故同座花座也又十三大院攝三部者中院遍知般若釋迦文殊虛空藏蘇悉地院等七院爲佛部金剛手院除

蓋院爲金剛部觀音地藏院爲蓮花部若爲五部者以釋迦爲羯磨部虛空藏爲寶部也又云以十三大院攝三部者中院遍知院般若院釋迦院文殊院虛空藏蘇悉地院等七院爲佛金剛手院爲金剛部觀音院地藏院爲蓮花部云

若爲五部者以釋迦院爲羯磨部虛空藏院爲寶部也云又以諸天院分三部者東門左右西門左右爲佛部南門左右爲金剛部北門左右爲蓮花云又以四門分三部者東西二門佛部南門金剛部北門蓮花部也云答云十三大院曼荼羅世流布曼荼羅云現圖曼荼羅云也善無畏三藏欲圖曼荼羅祈念時十三大院曼荼羅虛空顯現見之善無畏三藏圖之故現圖曼荼羅云也但隨宜曼荼羅也非本曼荼羅云又云內院地色黃色表是彌字色第一重院

六指云、又云、如是十六法一、皆等法界○如來萬德以爲十六指○極少量劑十六大卽無限云、師云、其十六指者、中臺八葉量也。其十六指者、謂有所表也。八葉上各有八種善知識、各持金剛慧印、故釋云、遍生諸葉間云、卽八葉與八尊也。故十六也。又表金剛頂、超十六菩薩、生入如來地云、

疏六云、若初心行人依世諦曼荼羅云、師云、其世諦曼荼羅者、是事相盡顯、本尊等曼荼羅是也。初心人唯依此未能見心中所具法界曼荼羅等故云、又云、內院外三重各、有四門、四、十六門皆可有二守護也。檢義釋大曼荼羅、第一重持明門、左相向守護、右不可越守護也。二外三重院各四門合十皆可有二守護、謂第一重院有之。如前說、謂檢現圖曼荼羅文殊院門對面對護有之。是第二重院也。第三重院、西門對面護難破釋云、

亦名相向守護、亦名相對、亦名阿毘目法對、對面護門、亦名不可越守護、亦名無能勝守護、亦名難破釋云、

答云、現圖曼荼羅帝釋有二人者、一說云、北方帝釋是三十三天中受妙樂時身也、東方帝釋、闖戰之時身形也。故以東門帝釋、可爲護方神也云、又北方帝釋他方帝釋也。東方帝釋此界、帝釋也云、又遍知院、二迦葉釋迦院狹故出。若遍知院、三部外部諸尊出生處故、聲聞出生一義、顯

薩埵大智三昧所現也。而大悲門、福德門也。求福衆生多故、現千臂利益之。大智門也云、又千手觀音院居金剛藏、金剛手院可有而虛空藏院置之者、虛空藏、福智兼備菩薩故、爲顯彼二義。此二菩薩於虛空藏院左右畫之也云、虛空藏劍寶持爲表福智二也云、又內院四角四瓶是四智瓶也。又四大菩薩院四角之賢瓶是於闕位安之。又第三重西門內、軌文有二龍井地神及二守護而圖無地神門中心有賢瓶、瓶下有荷葉、瓶如例有花杵等形、此瓶有二說、一西門通門故門前灑水瓶文云、況地天持瓶云、是地天三形也云、但現圖地天三形鉢盛花置之是隨宜、曼荼羅不可尋其理云、又難陀跋難陀二龍檢、龍經文軌文見之第三重院南門北門內有二龍、同之軌井東門無二龍可尋之。又云、圖同之軌井東門無二龍可尋之。又是表出離三界意故、三界頂安支佛也。

又云、曼荼羅八葉四佛四菩薩交坐者爲顯、因果不二旨也。實八葉八尊大日八法身也。故大日身必可具八尊云、求云。

法界大宮殿云有差別歟。和會云、法界宮者胎藏界內院外三重院大曼荼羅儀式也。此曼荼羅無邊法界、曼荼羅也。何以故、無邊法界現曼荼羅不過此十法界曼荼羅故云、大宮殿者、內院外三重院大曼荼羅上所覆家也。仍可知大宮殿者如王城法界宮者如城內諸舍云、又大宮殿有二說、一胎藏界內院外三重院大曼荼羅有一大宮殿內二內院外三重院諸尊各、有大宮殿云、入秘密曼荼羅意也

次第事

有云、大師胎藏次第三本、備在次第初第七、是前三卷梵字次第字鐵軌非也梵字次第字鐵軌非也

示云、備在次第者、初先發信解心擇地作壇備在經第七云故、名備在也。梵字次第者、上堂作法次觀、是前三卷梵字次第字鐵軌非也梵字次第者、說文漢字真言一向梵字故也

大師金剛界次第二本、梵字次第一卷示云、第大旨同也梵字次第一卷大師十八道次第也以大日爲本尊、第不同也梵字次第一卷大師十八道次第也以大日爲本尊、第非十八道儀軌事梵尾兩界次第圓城寺

金剛界八卷次第持寶金剛次第、作也算師此外無作文云金剛次第如意輪院兩界次第、十八道譜記同在之石山八卷次第胎四卷延命

之法皇兩次第持寶金剛次第如意輪院兩界次第、十八道譜記同在之石山八卷次第胎四卷延命

私云、安惠和尚弟子三重釋迦二重薩四菩

初重遍知觀音金中臺八印似義釋意若修因向果念珠法也。攝大日仁本中臺大日

印八初重遍知及三十二尊觀音金剛手不動二重四善三重迦釋天若從本垂迹曼荼羅則從內向外卽是

從本垂迹念誦法也。具緣品第七夜心○別本中臺大日佛遍知及蓮觀音二重迦釋天玄法兩卷三卷亂脫青龍並皆同之

但青龍三十二印安八印大日之前此等意總攝四重爲二部取意私云兩卷本三部如今以中臺安最後而先八印次大日也今同之云如何正說中臺八印初重遍知觀金釋迦二重四善三重世天若以釋迦在文殊內忠記私云其次第亂詳可問明師引對記攝軌并別本等次第了

已上對記私檢諸師儀軌多異此說所引恐異本歟今且於所見一兩本云攝軌佛遍知蓮觀音三重金釋迦世天中臺八印或本初重金手不動三重世天二重四善中臺大日印八印大日

此軌次第難詳善思擇之云此亦已上生起私云攝軌四說二說一先中台次佛蓮金次第次第

生起二說一先初三部次第次中臺

諸尊法行事

山門諸尊法付胎藏修行儀有四種樣

第一用通法加本法必須先用通法以本法加

而備第二用本法加通法若有本法直用

本法令所釋補以通法第三用通法捨本

法直用通法不用本法第四用本法捨通

法直用本法不用通法第一用通法加本

法者假令依悉地修之而今法十四根本

印十九布字等加用之說卽此義也歟第二

用本法加通法者五大院私記雖依立

印軌行法而加用胎五輪印明等卽此義

也第三直用通法者今代人諸尊法依兩

印界十八道等本法修之卽此義也第四直

用本法者如求聞持并觀音一印等法總

不用通法印明是也餘可准知之

五支念誦者三部護身四印加本尊根本

印明念誦也七支念誦者前五支加召請

並供養也但不動七支等異之也

通三密門若能解了旋轉者諸有所作皆成就文依此等文胎藏以諸尊修行見又

付胎藏可有大悲壇祕密壇二種也大悲壇者第四三摩耶也具緣祕密壇者第五

三摩耶羅品疏此二壇各可有都別二壇

大悲都壇者三部四重常胎曼荼羅是也

三摩耶羅品疏此二壇各可有都別二壇

本尊第二重三部諸尊第三重護世八天

等二三部各別壇中臺第三重如前而第

二重置當部諸尊三諸尊隨一別壇中臺

第三重如前而第二重置角眷屬也是等

壇大幡四十九燈，具足修之。是付陀羅尼集經修也。大法者七佛藥師。是離壇建五境十二天聖天壇。此時安七佛像。依本願藥師經。七佛藥師經等云。又一座行法三身。壇中安置本尊。應身道場觀成佛。法召請虛空來佛。報身故大悲成就儀軌云。卽立作寶慧印迎座者。前所觀者名爲法身相。今所請者名爲慧身。屈彼慧身來就法體。由是義故先觀後請文。此文分明也。是三身一體卽入我。入時三身卽一佛行者不二也。大云。合行只隨意。依何界修之五佛印。二界大日二界阿闍乃至二界釋迦類聚結之。自餘隨意。師曰。胎合行之五佛之印時。先寶幢。次卽阿闍乃至次天鼓。次不空成就。次大日。用三昧耶會可金合行時出三昧耶會中。先大日。二界次阿闍次寶幢等云。○四菩薩不女結之云。若結者可合四波羅蜜歟。

印抄云。私云。隨兩界行者房中作法亦雖須替用。先修十八道金剛界者。亦依彼作法歟。堂門用否云何。次壇前普禮。私云。金剛合掌。念珠係腕也。謂普禮真言三遍。三度禮佛。一返不散印漸如蹲踞禮也。但晴行法。取香爐禮。普禮明出無量壽軌。但彼執蓮花合掌禮佛樣可見集經歟。次著座普禮。誦普禮明印坐禮之私云。此處著座樣可尋之。常途說從此可用結跏半跏等也。今云。前方便之間不可必用法坐。三力之後入供養法可用之也。所謂金界四無量觀胎藏九月輪等時也云。問。然者前方便間。任意坐歟。私云。彼前方便時可有用意也。謂輪王座等。亦是法座也。是天等常坐樣也。二交坐也。右上於前方便者。任此等座可宜歟。輪王坐有三樣事可見金輪軌也。抑此座法事。是今安也。只可任名師說歟。

香會之餘但古今諸師未用之。次三密觀。指開不開云何。金界檜尾次第云。蓮花合掌。口決云。中指未少開云。口大師御說。然而近代或開或不開。次淨三業。蓮花合掌也。中指未少開云。口是決入佛法界轉法輪爲三部三摩耶。但常途說只用十八道三部印言。已上印抄。記云。加持香水劍。石山云。以右手作三鉢印。真言曰。唵。大威德。院同之。印抄云。先開香蓋置便宜所。次散杖橫置器上。或不爾。尤此說。次取念珠移取左手。次右手作三股印。空宜押水甲誦軍荼利小呪二十。一返加之左。數次取散杖攬水。各二十一返誦。持時順撓。次灑壇上供物自身等。次散杖置之。或置器。胎藏界時器蓋此處不覆之已上。或云。口云。作法如金界。但以不動劍印。誦普賢跏。或隨意而坐云。不順法歎。仁王經軌云。第三入道場。○五體投地遍禮各住辦事明王三摩地。可察供物闕否。作○三寶承仕法也。然或修之。或略歎。次辦備供物。胎不動降三世。是辦事明王也。私云。隨界依法。次塗香。塗香作法如當。但可見石山私云。習諸事。祕教之內供四卷金界次第也。各住辦事明王三摩地。可察供物闕否。作具三密也。何於塗香時。唯有身儀觀念。不承仕法也。然或修之。或略歎。到堂門觀改無能勝。可如十八道。無能勝。又來金剛界儀軌中。初塗香時用真言也。唐請

問。胎藏加持香水何不用軍荼利印明乎。

示云。軍荼利印明通加持印明故一切法

記云。加持供物不動劍印真言同私云石山中院

三旋轉順逆各慈救呪一遍一字心呪七

明王故殊用不動印明也假令不動劍印行胎藏法不可相違雖然不動爲胎藏辦事

印者右手以空指押地水甲也示云二字觀如金剛界無異也

今私云加持香水口決委有金界

四種拳事

示云拳有四種一金剛拳二蓮花拳三內

拳四外拳初金剛拳有二說大日經疏說大指入掌中以四指握之次金剛頂部說以大指入掌中以四指握之而以風指端

捻大指初節背也別本繪尾口決慥以風

指端大指背節著云然以風指端大指甲

上捻等傳僻事也不可依之也

金剛拳內掌縛開成金剛拳內掌縛

拳者外縛也

示云此外又有忿怒拳付

拳者多此定也然或軌中風指鈎小指沙

拳得意胎藏部只依拳云蓮花拳可得意

中指無名指風指小指鈎此說餘經軌イ

ト無也又示云金剛頂部只作拳云金剛

キ也次大日經疏忿怒拳說云以大指押

拳得意胎藏部只依拳云蓮花拳可得意

也金剛頂部金剛拳云多分風指堅印也

頭指不堅是大日經疏說也

印者不動劍印也順逆加持等者順逆各遍者是故僧正私記也順七遍旋轉誦

也或加歸命句也有云示云石藏傳云以不動劍印半印以一字心明加持之也順逆加持也順逆者右行云順左行云逆各

逆加持也順逆之間真言只三遍誦也成賢

口傳順逆間明七返云

云金剛拳者大指入掌以地水火捲之屈風立空背_{出金輪時處執輪}蓮花拳大指置外胎拳安腰樣一云拳側立向身置腰一云拳仰安腰邊一云高雄泥曼茶羅羅中單印諸尊左手作拳仰跏跌上但三說中可依師說

歎裏書云五部拳事對受記云智拳忿

怒拳大拳蓮花拳內拳自應五部又云記者私云叡和上說大指入掌以四指握之

是忿怒內拳也唯令進怒是智拳印也令

檀進怒是牙印也高大夫說智拳同前令

檀進怒拳也以空直安進蓮花拳也元大

德說五指握以大指端著食指之側是蓮

花拳也私云大日義釋出四種拳是胎藏

法云已上

注釋云加持供物不動劍印去無始本有

因業成微妙供具義智慧刀也

或云遍智院御記云左手蓮花拳堅

頭指端合二拳側合如其形三角火

輪結此印可誦_三字三遍十八道及金剛

界頂上等觀之今不然只結火輪印誦_三

字三遍依此印明加持力依正皆成無垢

清淨可觀之此印明同是火天法性故也

大日經說法界生印功能云無垢如虛空

文今火輪印彼法界生印也故今功能又

如彼以此意可觀之誦_三字之時無歸命

句也只誦_三字已上

觀佛金剛起如金界

記云。次唱禮

有云。示云。今唱禮云。九方便。唱禮云。得意人常在之。是僻事有也。若九方便。唱禮云者。何次下又九方便云乎。故今云唱禮者。

尊形中臺大日法界定印
大日經四云爾時薄伽梵卽便住於身無
害力三昧住斯定故說一切如來入三昧
耶遍一切無能障礙力無等三昧力明妃

同九云。具緣品。三昧耶是平等義。是本誓義。是除障義。是驚覺義。言平等者。謂如來現證此三昧時。見一切衆生種身語意悉皆與如來等。禪定智慧與實相身亦畢竟

是九方使以前用事也。南無毘盧遮那。十
么諸佛禮詞唱故云唱禮也是聲明也。山
門當時用之。東寺當世一向不用之。今次
第略唱禮其代用普禮印明也。東寺水尾
玄靜阿闍梨制書中用唱禮事此師山門
東寺兼學師也。故自門他門祖師有也。又
延命院灌頂私記出唱禮詞用唱禮定胎
金俱可用之也。胎九方便以前用之。金五
悔以前用之。同用金剛合掌。今用普禮如

常記云。入佛三昧耶。

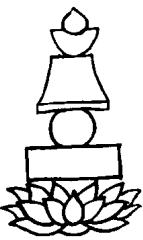
(白缺)

曰同本記明○祕密主如是明妃示現一切如來地○一切諸佛教世之大印正覺三耶於此印而住文
第七增益守護品
又云次當結三昧耶印所謂淨除三業道應知印相諸正遍知說當合定慧手並建二空輪遍觸支分誦持真實語入佛三昧耶明日南慶薩婆怛他引蘖帝驃一微濕轉合目契弊唵阿三迷三咀履合三迷四三廢曳平莎訶橈結此密印能淨如來地地波羅蜜滿成三法道界所餘諸印等次第如經說真言當知所作得成就文私云攝同二云說入佛三昧耶持明日私云明功能同本記功能

云。卽於爾時於一切佛刹一切菩薩衆會之中說此入佛三昧耶明已諸佛子等同聞是者一切法而不違越文

大疏九云世尊前入法界胎藏三昧時見一切衆生悉有菩提種子等同諸佛故說入佛三昧耶持明以此持明得入佛平等戒即是託聖胎義也文

三摩都婆



文云。佛說初三昧耶爲自受用。

私云佛部也可大日云
梵號。又名遍照金剛
密號。遍照金剛

種子。火
三摩都婆

法界生印印心。又作轉法輪印印臘輪上
各三誦。披真言次。卽轉彼心中阿字門爲
囉字門。結金剛薩埵印。印諸支分。所謂五

同十三云品印其明名爲無礙無害無等力也。由此三昧耶諸學者得聽聞得入正法。若不作者卽不合入壇亦不合聽祕教也。若修此明卽能得身淨語淨所願滿足會於三身故名爲三明也。三力者謂三世力。或是三平等力也。無等力者卽此三之力也。其明次當說之耳。阿婆迷者此中卽以阿字爲首卽同諸佛法身無相離相當知此法身是無與等比也。三迷者諸佛三身

謂法報化合爲一身教化衆生也亦體同
阿字之門無相離相故言等也三昧耶者
是不可越義是無等三等諸如來之所同

說也佛住三昧說此明無害無等力由此
明故能入三昧耶此三昧耶即是誓願猶
如於勅是三世佛本所要誓也此法門難
信難入難得聽聞由法不可遇故也以是
故三世佛同說此真言以此三昧耶真言
加被得入聽聞修行此法也如尊之教不

可違越若不聞者即不得入亦不得聽聞

也娑訶是驚發義也以此真言驚發說此

明時諸佛即驚發而加持行入也文

同九云從此三昧起已即說法界生真言

又以普眼諦觀見此一衆生金剛事業

具足成就爾時無盡莊嚴亦復與如來等

從此三昧起已即說金剛薩埵真言故此

三昧皆名三昧耶也復次由入佛三昧耶

故於胎藏中不令夭折由法界生故初出

胎時離諸障礙由金剛薩埵故能轉家業

備諸伎藝又以入佛三昧耶加持祕密中

胎藏以法界生加持金剛菩薩二重眷屬

以金剛薩埵加持種子隨類之形入佛三

昧耶如蓮花藏法界生如蓮花數金剛薩

埵如蓮花成就復還爲種故此三昧皆名

三昧耶也

攝大軌云次當結三昧耶印所謂淨除三

業道應知密印相諸正遍知說當合定慧

手青龍軌云次當結三昧耶印定慧虛心合掌空

並建如輪能滿福

口意平等五處真言各

一遍能除有障淨自身

裹莫三曼多沒駄南歸

如來一切阿三迷無等謂

生化智

謂淨除三業道真言曰

同如來祕密身

命

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

覺知發誠言我今方便爲諸衆生決除眼

膜若我誓願必成就者令諸衆生隨我方

便說誠言時於一生中獲無垢眼障蓋都

盡故名三昧言驚覺者佛見衆生隨我方

睡於此功德不自覺知故誠言感動令悟

亦以驚覺諸善薩等令起深禪窟學師子

頻由若有行人說此三昧我當憶持本誓

不違猶如國王自制法已還自順行故名

三昧云已上四義約佛釋之若約菩薩四

義思惟釋之又餘義至不可出之所謂淨

化如來阿三身也怛哩合三迷報化合爲身

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

覺知發誠言我今方便爲諸衆生決除眼

膜若我誓願必成就者令諸衆生隨我方

便說誠言時於一生中獲無垢眼障蓋都

盡故名三昧言驚覺者佛見衆生隨我方

睡於此功德不自覺知故誠言感動令悟

亦以驚覺諸善薩等令起深禪窟學師子

頻由若有行人說此三昧我當憶持本誓

不違猶如國王自制法已還自順行故名

三昧云已上四義約佛釋之若約菩薩四

義思惟釋之又餘義至不可出之所謂淨

化如來阿三身也怛哩合三迷報化合爲身

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

覺知發誠言我今方便爲諸衆生決除眼

膜若我誓願必成就者令諸衆生隨我方

便說誠言時於一生中獲無垢眼障蓋都
盡故名三昧言驚覺者佛見衆生隨我方
睡於此功德不自覺知故誠言感動令悟

亦以驚覺諸善薩等令起深禪窟學師子

頻由若有行人說此三昧我當憶持本誓

不違猶如國王自制法已還自順行故名

三昧云已上四義約佛釋之若約菩薩四

義思惟釋之又餘義至不可出之所謂淨

化如來阿三身也怛哩合三迷報化合爲身

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

覺知發誠言我今方便爲諸衆生決除眼

膜若我誓願必成就者令諸衆生隨我方

便說誠言時於一生中獲無垢眼障蓋都

盡故名三昧言驚覺者佛見衆生隨我方

睡於此功德不自覺知故誠言感動令悟

亦以驚覺諸善薩等令起深禪窟學師子

頻由若有行人說此三昧我當憶持本誓

不違猶如國王自制法已還自順行故名

三昧云已上四義約佛釋之若約菩薩四

義思惟釋之又餘義至不可出之所謂淨

化如來阿三身也怛哩合三迷報化合爲身

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

覺知發誠言我今方便爲諸衆生決除眼

膜若我誓願必成就者令諸衆生隨我方

便說誠言時於一生中獲無垢眼障蓋都

盡故名三昧言驚覺者佛見衆生隨我方

睡於此功德不自覺知故誠言感動令悟

亦以驚覺諸善薩等令起深禪窟學師子

頻由若有行人說此三昧我當憶持本誓

不違猶如國王自制法已還自順行故名

三昧云已上四義約佛釋之若約菩薩四

義思惟釋之又餘義至不可出之所謂淨

化如來阿三身也怛哩合三迷報化合爲身

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

覺知發誠言我今方便爲諸衆生決除眼

膜若我誓願必成就者令諸衆生隨我方

便說誠言時於一生中獲無垢眼障蓋都

盡故名三昧言驚覺者佛見衆生隨我方

睡於此功德不自覺知故誠言感動令悟

亦以驚覺諸善薩等令起深禪窟學師子

頻由若有行人說此三昧我當憶持本誓

不違猶如國王自制法已還自順行故名

三昧云已上四義約佛釋之若約菩薩四

義思惟釋之又餘義至不可出之所謂淨

化如來阿三身也怛哩合三迷報化合爲身

科云第二明護身次第者初大佛三昧耶

次法界次金剛輪義釋意云入佛三昧耶

是託聖胎義也法界生是聖胎具足生在

佛家也轉法輪是金剛事業具足成就也

云

真云當結三昧耶等解云自下五文明初

地行於一地中更有三心謂入住出今此

文中顯初入心疏云入佛三昧是生法界

身也三昧耶者是平等義亦本誓義亦除

障義亦驚覺義言平等者謂佛現證此三

昧時見諸衆生三業同佛禪智亦等初發

心時與地波羅蜜多滿時亦畢竟等是故

誠言以告衆生若我所言必不虛者亦諸

衆生發此言時亦蒙加持無盡莊嚴與如

來等以是因緣依金剛事故名三昧言本

禪者佛見衆生有成佛義立本誓言我今

方便令諸衆生皆至菩提剎未來際我業

不息若有衆生隨我本願發此誠言時亦

令彼事業皆成金剛性故名三昧耶言除

障者佛見衆生有佛法界但由無明不自

